

3. 広島市西区最高峰

大茶臼山 (413.0m)

広島市西区



大茶臼山は西区北端の山。中世、己斐城のあった小茶臼山の背後にそびえ、大茶臼山は砦になっていたらしい。今は広島市のどこからでも見える無線中継所がある。

広島市西区	2017,4,1 推定
<面積>	35.61 km ²
<人口>	191,573 人
<人口密度>	5,380 人/km ²

【山行日】 4月30日(日) ☆天候：晴れ

【参加者】 27名 CL坂井エイコ SL松本妙子

杉山 合志 反田 藤原 三浦 中島(恵) 中島(靖) 新江 宮木(一) 宮木(澄) 谷本 小山 井原 田所 曾田 林 皿家 中野 小川

<のんびりコース> CL 石田明日子 中島(美) 若木 三重(成) 川野 高橋

【コースタイム】 三滝駅 9:00→三滝寺出発 9:40→宗箇山山頂 10:35→

大茶臼登山口 11:10→畑峠 11:40→大茶臼山 12:15→展望岩 12:25 (昼食) 出発→己斐峠 13:50

【報告】 三滝寺で準備体操をし、自己紹介したあと、本日の山行予定を確認。ここでのんびりコースを歩く6人と別れ21人で西区最高峰大茶臼山登頂を目指して歩く。3年前の大雨災害で工事中のため、Bコースは通行止め。Aコースを進む。竹藪のところで近くの子供会の行事だろうか子供と大人が団体がタケノコ堀をしていた。若竹のいい匂いを嗅ぎながら順調に宗箇山山頂に着く。時間は予定通り。今日は真夏日という天気予報で水分をこまめに飲みながら大茶臼山へ足を進める。宗箇山から大茶臼山へはきつい傾斜の下りがある。一人ひとり間を開けながら慎重におりる。大腿四頭筋が鍛えられる。

20人前後の団体なので、足並みも揃いまぶしい新緑の中、予定時間より早く大茶臼山山頂に到着。30周年記念の写真撮影をして、昼食休憩の展望岩へ。ここで昼食休憩。下山はもう少し歩きたい組(宗箇山へピストン・武田山コース)と



予定通り己斐峠へ下山する組に分かれ事故もなく無事21名下山することができた。時間は武田山まで歩いた人たちは6時ごろの下山になったようだ。暑さはあったものの、気持ちのよい風が吹き、春の山行を楽しむことができたと思う。

(記 坂井エイコ)

大茶臼山(立石城)の城主は誰？



大茶臼山は己斐町にあり、山頂直下の展望岩には左の写真のような城跡の説明文もあるが詳しいことは分からない。

己斐という地名は神功皇后が西征の際、今の旭山神社下あたりに立ち寄り、県主(古代に県を統治した人)が大きな鯉を献上したので「鯉村」となったという説、「山間の村」だったので「峡村」(かひむら)が変化した、古くは「許斐」と書かれていたこともあるので福岡県宗像市の「許斐神社」と関係するのではなどの説もある。

広島デルタが未発達の中世の山城の時代、この地に岩原(今の旭山神社あたり)、平原(小茶臼)に2つの城があった。背後の山々を砦としてその城を築いたのが、己斐氏といわれている。大茶臼山の展望岩の所にあった立石城は「広島近郊の山城と史跡」(請川洋一著 2002年発行)によると、「鉄砲や火器の発達により高山への築城が有利とされる時代になっていつでも城郭を構築できるように整備されていたようだ。『國郡志下調書出張寫』(文政8,1825)には、城主不明とあり、己斐氏の重臣が詰めていたのではないかと記してある。

己斐は植木で有名な町

紀州から広島に入城した浅野長晟は2代将軍徳川秀忠の妹、振姫を妻としていたが、この振姫は盆栽の趣味があり、特に牡丹を愛したといわれている。そこで長晟は紀州からの国替えの際、下村次郎左衛門という植木職人を同行し、入城すると直ちに植木盆栽の地を探させた。己斐の地は南面で温暖なので適地ということが判明し、次郎左衛門は己斐の地で牡丹造りをはじめとし、植木盆栽の育成に努力した。

その結果、己斐の町は植木盆栽の町として有名になっていった。病弱な振姫は、結局広島へは入城せず終わったが、振姫の愛した植木盆栽は己斐の町で花開いたという。

参考：新修広島城下町 己斐の歴史講座(広島市己斐公民館)

西区最高峰大茶臼山山頂で



今までやまぼうしで登った西区の 他の山

宗箇山 小茶臼山 柚木城山
鈴ヶ峰 鬼ヶ城山